

# 蓬左文庫と所蔵の医学書・本草学書

桐原千文  
名古屋市蓬左文庫

徳川家康；徳川吉通；太平整恵方；伊藤圭介

蓬左文庫は、尾張徳川家の旧蔵書を中心に和漢の優れた古典籍を所蔵する公開文庫です。蔵書の中心となる尾張徳川家の旧蔵書は、初代藩主義直が父家康の遺品として譲り受けた「駿河御譲本」を基礎に創設した尾張藩御文庫に始まります。御文庫の蔵書は義直以来、歴代藩主の蔵書であり、現在蓬左文庫が所蔵する医学書のほとんどが御文庫の蔵書です。当時の蔵書目録によると、御文庫には千数百種の医学書が所蔵されており、内容的にも和漢の医学書の古典を網羅したものであったことがうかがわれます。

徳川家康は、自ら薬を調合したと伝えられるほど医学に関心が深く、「駿河御譲本」のなかにも中国・朝鮮の医学書が含まれています。初代藩主義直、2代光友はじめ歴代藩主の蔵書からも少なからず医学への関心をうかがうことができますが、とくに4代藩主吉通(1689-1713)は、薬の調合や珍しい医書、薬種の研究、医者を集めての輪講など、医学への関心が高く吉通の収集した医書は千種を優に超えていたであろうと推定されています。

江戸時代を通じて御文庫に所蔵されていた医学書は、明治維新の際の払い出しによって多くが流出することになりました。現在当文庫が所蔵する医学書は、約百種、最盛期の十分の一以下となったものの、漢方から蘭方にいたるまで、古典とされる医学書の多くを所蔵しています。

このたびは、重要文化財『太平聖恵方』や藩に献上された伊藤圭介訳『泰西本草名疏』の特装本など当文庫を代表する医学書、本草書をいくつかとりあげご紹介します。

# 蓬左文庫

## 名古屋市蓬左文庫について



尾張徳川家の旧蔵書を中心に、和漢の優れた古典籍約 11 万点を所蔵する公開文庫です。尾張徳川家に伝えられた 2 千枚をこえる絵図も所蔵しており、なかには名古屋の城下図から世界図におよぶ古地図、屋敷図・庭園図などが含まれます。

### ■蓬左とは

江戸時代に使用された名古屋の別称です。つまり蓬左文庫とは「名古屋文庫」という意味になります。

### ■蓬左文庫の歴史

徳川家康の死去により、その遺品の多くが尾張、紀伊、水戸の御三家に分譲されました。このうち、のちに駿河御譲本と呼ばれる家康の蔵書については、3 千冊が尾張家に譲られ、これを契機に、尾張藩の御文庫が形成されました。明治以降は、尾張徳川家の蔵書として保管され、昭和 10 年に一般公開を開始したのち、戦争により一時休館を余儀なくされますが、昭和 25 年に名古屋市に移管され本格的な一般公開を再開。名古屋市教育委員会の管轄下、図書館の分館をへて、昭和 53 年より、名古屋市博物館の分館となっています。

### ■駿河御譲本

晩年の徳川家康は、学術文化の受容、振興に熱心で、駿府（現在の静岡）に隠居後、江戸城内に設立されていた富士見亭文庫から蔵書の一部を移し、駿河文庫を創りました。その蔵書には、金沢文庫（鎌倉幕府の執権北条氏の一族が創設した文庫）の旧蔵書、朝鮮の優れた金属活字印刷による書物など、当時、収集できる最高のものが集められました。現在、紀州・水戸両家分については、ほとんど「駿河御譲本」の実体を確認することができませんが、蓬左文庫に残る尾張家分は、「駿河御譲本」の原型を最もよく伝えています。

### ■蓬左文庫の代表的な蔵書



河内本源氏物語（重要文化財）



続日本紀（重要文化財）



つれづれ草 奈良絵本

引用：蓬左文庫ウェブサイト <http://housa.city.nagoya.jp/index.html> （文責：市川）